

京都市地域・多文化交流 ネットワークサロン通信

発行日 2019年10月31日 編集・発行 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン 第31号

みんなが支え合う住みやすいまちを！

6月、九条湯というノスタルジックな場所で上演された二人芝居「エコー」を観た。東九条生まれの若手アーティスト、ふうちゃんこと浜辺ふう主宰〈九条劇〉の第二弾。「東九条地域の語り部になれ」との先生からの宿題に取り掛かるべく地域の歴史を掘り起こす物語から、私自身の50年前の東九条との出会い体験を思い出していた。

《東九条を「多文化共生のまち」のモデル地域にしていこう》と呼びかけて「京都・東九条CANフォーラム」（CAN＝コミュニティ・アクション・ネットワーク）の設立総会が2009年5月10日に開催され参加した。それ以降私は足繁く東九条に通うようになり、そんなある日「アレ！昔バイトしていた小山油脂はここだったんだ！」と突然の発見があり、当時を懐かしく思い出した。1965（昭和40）年、立命大1回生の夏休み、学生課の紹介で東九条の「小山油脂」に約1か月バイトに通った。河原町と東寺道との交差点、現在コミュニティカフェ「ほっこり」のある南東角には当時映画館があり、その数軒東側に今も「小山油脂工場」がある。その時の仕事は、朝から夕方まで石鹼の原材料〈椰子油〉を詰めるドラム缶に熱湯・強力洗剤・鎖数本とを入れ、蓋を閉めて横倒しにし、人

力で揺さぶり内部を洗浄する肉体労働だった。真夏の屋外作業で重労働だったが、食事付きだったことと、夕方、作業終了後に風呂を沸かして入らせてもらえるのが有難かった。バイトの最終日、工場の親方が「俺の履いてた靴やけど田舎に帰省する時に履いて帰ればええやんか」と新聞紙に包んで黒革靴をプレゼントしてくれた。貧乏学生の私には親方の心遣いが嬉しく、有難くその靴を履いて北海道へ帰省したことを懐かしく思い出す。世間知らずの18歳が、故郷を離れて4か月目に味わった素朴で心温まる貴重な東九条との出会いであった。



『京都駅東南部エリア活性化方針』は、京都市のホームページからダウンロードすることができます。

あれから半世紀の時流れ、在日コリアンと日本人とが共に暮らす、活気と人間味あふれる東九条の環境は大きく変化した。少子高齢化と人口減少で活気が失われ、近くのスーパーや店がなくなり、買い物難民が増加。マンモス団地の跡地や「市住総」（住宅市街地総合整備事業）によって生まれた空き地がいくつも残され、ホテルや民泊が乱立し土地価格が高騰している。

一方今年6月には小劇場「シアターE9」がオープンし演劇を中心とした芸術活動が展開されつつある。そして2023年に京都市立芸大の崇仁地域移転予定に伴い、芸大を核とした「芸術と若者の街」とする「京都市東南部エリア活性化方針」が2017年3月に発表された。そこには「目指すべき将来像」として①文化芸術を基軸に、伝統産業、観光、教育などのあらゆる分野と融合することにより、新しい価値を創造し、世界中の人々を惹きつけ、訪れたいまち。②京都の玄関にふさわしい魅力的な機能が集積するまち。③若者を中心に、多くの人々が住み、学び、働き、交流する活気のあるまち。④高齢者や子ども、障がいのある人、国籍や文化的背景の異なる人など、様々な人が、互いの多様性を認め合い、心豊かに住み続けられるまち。と記されている。素敵な将来像だ。ところが、9月に市が策定した「京都駅周辺における『文化芸術都市・京都』の新たな文化ゾーンの創出に向けた都市計画の見直し素案」は、先の「目指すべき将来像」特に③④の実現を困難にすると思えない内容だ。9月4日に開催された住民説明会で反対や疑問の声が出され紛糾したことで明らかだ。地元の声を聴き、住民の暮らしと生活文化の向上、高齢者や障がい者、学生や若い芸術家など経済的弱者が安心して住める住環境整備最優先の「見直し素案」とすることが何よりも必要だ。（^{ふしたかし} 藤喬 NPO法人京都暮らし応援ネットワーク理事）

「4・3・2・市が、毎月第2日曜日に開催されています!!」

ネットワークセンターの南向かいにある南岩本市営住宅の1階に、2018年10月、コミュニティカフェほっこりがOPENしました。京都市健康長寿サロンの補助金を受け、高齢者の居場所作りや多世代交流の場として、日々賑わっています。コミュニティカフェほっこりと、ワークス共同作業所、京都ちーびずが合同イベントとして2019年7月より第2日曜日に開催しているのが「4・3・2・市」です。今回は、9月8日（日）に開催された「4・3・2・市」と、それぞれの団体をご紹介します。



■コミュニティカフェほっこり

コミュニティカフェほっこりは、平日、保育園や児童館帰りの親子、高齢者さん、お仕事の後のひと時を過ごすみなさんで賑わっています。カフェメニュー（コーヒー、ジュースetc.）、ごはん（うどん、出し巻き、からあげ、コロッケetc.）やお酒（生ビール、焼酎）が、お手軽なお値段で提供されています。平日は、若い店長を中心に、シニアスタッフたちが交代で接客しています。また、スマホ・パソコン教室や、囲碁将棋倶楽部、月1度のほっこりライブなど、イベントにも力を入れています。



4・3・2・市は、ほっこりカフェのシニアスタッフも活躍しています。



「今日のおすすめメニュー」は「焼おにぎりセット」。この日も、ご近所のご高齢者さんたちが、コーヒーや昼ビールを飲みながら、ほっこりされていました。

※営業時間 月～土 15:00～22:30

（木曜日は18時閉店、土曜日は時々12時開店）

■ワークス共同作業所：多機能型事業所（就労継続支援B型・生活介護）

京都市内に住居する障害者総合支援法に規定された障害者が通所し各種作業を通じて、自立生活に必要な社会のしくみ経済の原則（金銭の自己管理等）を修得させ、自立生活への援助を行うことを目的としています。

1996年『京都市身体障害者共同作業所』の認定を受け設立されました。2002年8月NPO法人格を取得し、現在、理事7名・監事1名によって運営されています。



こちらは、看板娘のあゆみさん

ワークスではコンピュータを使った名刺づくり、DTPによるポップ、封筒印刷、入力作業、名簿などの管理、他にカレンダー等の自主製品の制作販売にも取り組んでいます。名刺やパンフレット、封筒等の制作・印刷やイベントの盛り上げ役にどうぞワークス共同作業所をご用命下さい。よろしく申し上げます。

※開所時間 月～金 10:00～16:00（休暇 夏期・年末年始1週間程度）



4・3・2・市では、ワークス共同作業所のみなさんが、いつものソフトアイスに加え、なんと流しそうめんを販売されていました。東九条が大好きな松田さんも参加されました。

■京都ちーびず

京都ちーびず（地域カビジネス）は、府民自身が力を合わせて、ビジネス的手法で財源をつくり、地域の仕事や雇用を生み出して地域課題の解決（まちづくり）を継続する取り組みです。普段使

いの京都ちーびずカタログは、京都府から委託を受けたちーびず推進員が、府と協働して、「ちーびず製品・サービス」や、ちーびずの現地へ出向き地元ガイドにお話を



聞く「ちーたび」、地域の元気や魅力発信の拠点「コミュニティカフェ」等を紹介しています。18号では、コミュニティカ



フェほっこりが紹介されました。ちーびず推進員の堤さんが、お客さんたちに、「山城ばあばのピザソース」を使ったピザをふるまってくださいました。山城地域のおばあちゃんの手作りピザソースがとても美味しく、商品化されたそうです。この日は長なすくうしんさいや空心菜などの新鮮なお野菜も販売されていました。

■東九条こどもご近所映画祭作品上映会

8月5日、希望の家児童館の子どもたちが、俳優さんやカメラマンさんなど、映画作りのプロのみなさんにアドバイスをもらいながら、たったの3時間で映画をつくりました。撮影は、京都市地域・多文化交流ネットワークセンターに加え、東九条に新しくできた劇場「THEATRE E9 KYOTO」でも行われました。8月23日には劇場で、アカデミー賞さながらの上映会が開催されました。今回の4・3・2・市では、見られなかった方々のために上映会が行われました。日曜日の午前中、ほのぼのとした雰囲気の中で、上映会はおこなわれました。1本が3分程のショートムービーが3本。3本ともが、みごとにホラーがかっていましたが、子どもらしい作品に、お客さんからも笑いが起きていました。



＜登録団体より活動報告＞

ヒューマン・ソサエティ研究会

「ヒューマン・ソサエティ研究会」では、社会における様々な事象、社会が抱える課題、それらの課題を乗り越えようとする人々、社会政策、社会現象が生じる過程等を、主に社会学、社会福祉学の手法で研究している大学院生、大学教員、研究者が集まり、各自が行っている研究を報告し合っています。これまでに報告されたテーマは、



は、就労を通じた知的障害者の農村地域における社会包摂、地域公共交通の課題、京都市の生活保護政策、「発達障害」に関する制度・家族の経験の研究、旧日本海軍少年兵のライフヒストリー研究、日本の戦間期における栄養学の普及過程、イタリアのサードセクターの動向、ハンナ・アレントの公共性論研究、逸脱理論研究、社会病理学理論研究、戦前戦後期の社会学研究史などで、研究テーマは多岐にわたります。また、その手法は、対象者へのヒアリング調査から文献研究まで、時代は、戦前から現在まで、そして対象地域も京都市内から日本の農村地域からイタリア、地域未限定と実に様々です。このように、各自の研究テーマ・手法は異なっていますが、それらの研究の根底にあるのは、研究会の名称「ヒューマン・ソサエティ」に込められているように、人々が共に生きる、よりよい社会の存立条件について考えていくことです。現在は原則毎月1回、第4土曜日の午後2時半～5時まで京都市地域・多文化交流ネットワークセンターにて研究報告会を行っています。研究会には、毎回、京都大学名誉教授、立命館大学元教授の宝月誠先生（逸脱研究、



社会理論研究）に参加していただき、先生から各自の研究を社会に発信する論文として完成させるためのアドバイスをいただくことも少なくありません。社会学、社会福祉学領域の研究発表をされたい方の参加はもちろんのこと、将来研究者を目指しておられる方の見学も歓迎いたします。どうぞ遠慮なくご連絡ください。（土岐智賀子）

<登録団体より活動報告>

「ことばの力」を育てたい—小学生読解・作文教室「Lゼミ」の学び NPO法人シンフォニー・京都

「今日は、オリジナルの標識を作ろう」「禁止マークの中に片足上げた人、それ何?」「揚げ足を取るな、ちゅうこと」「なるほど!」……L（リテラシー）ゼミ、ワークショップの1コマです。ことばをテーマに、いろんな課題にチャレンジするこのとりくみ、時には地域の青年や大学生も参加し、みんな熱心にとりくんでいます。Lゼミは、毎週土曜日の午後、ネットワーク・サロンの一室で開講しています。読解練習（個別指導）とワークショップの2本立て、小学生対象の日本語<読み・書き>教室です。実施主体は尼崎市を本拠とするNPO法人シンフォニー、リテ・ラボ（Literacy.Labo）が運営を担っています。



す。シンフォニーは、阪神・淡路大震災の被災者支援を出発点に、多様な活動を展開してきました（<http://www.npos.cc/>）。生活困窮世帯の子どもたちへの学習支援、学童保育、定住外国人の研修等の教育事業にもとりくんでおり、Lゼミはその一環です。Lゼミの目的は、「自分で学ぶ」ために必要なことばの力を育てることです。とくに、様々な問いの意味を正しくつかむ力、答えに至る道筋を説明する力を重視しています。そのために、文章の論理をきちんととらえる、頭の中にあることをことば（記号）化する、そして、対話を通じて思考を組み立てていく、という活動を中心においています。多様な文化や経験を背景とした人々が暮らす社会で、解決すべき問題と向き合うとき、対話や議論を通じた人々の判断と合意以外に拠るべきものはありません。そこでは論理が重要な意味をもつでしょう。Lゼミはそうした社会が求める力を基礎から育てていく試みです。議論と共同の営みを重ね、様々な境界を越えた地域の文化をつくりだしてきた東九条、その経験を土壌として、ことば教育の新たな試みを広げていきたいと思っています。教室体験、いつでも受け付けます。

※連絡先：lite.labo@gmail.com 080-3861-8651

□所在地：〒601-8006京都市南区東九条東岩本町31（京都市地域・多文化交流ネットワークセンター内）

□tel:075-671-0108 fax:075-691-7471 E-mail: info@kyotonetworksaron.jp

□開館時間：9時～17時 □webサイト：http://www.kyotonetworksalon.jp

□JR京都駅八条口・京阪東福寺・市営地下鉄九条駅より徒歩15分

□京都市バス 42・202・207・208系統九条河原町より徒歩10分/16・84系統河原町東寺道より徒歩1分